

# 新しい年に願いを込めて わら細工教室が大賑わい



立派なしめ飾りを手に

寒さの増した年末12月24日に日高交流センターで毎年恒例のわら細工教室が開催されました。地元の小野俊郎さんから提供され、前日に有志の手でわらすぐりしたわらが用意されました。当日は31名が参加して、新しい年を迎えるためのしめ飾り作りに挑戦しました。



うまく出来るかな

木田勝壽さんからいただいたゆずり葉や大武光子さんの橙と事務局用意の装飾セットを受け取って早速作り始めました。指導は例年通り自治会の志賀会長と根本とよさんです。会場には終始和やかな空気が流れており、常連と初心者と共に一生懸命に作品を作りましました。

参加者は、「形が上手にできなくても楽しくつくれました」と話していました。最後に皆で集合写真を撮って、教室は盛況のうちに終了しました。

## 東連津川の大雨

### 被害調査に同行

12月3日にジオネット日立による東連津川大雨被害調査が実施され、日高学区市民自治会からは3名が参加しました。茨城大学名誉教授の田切氏の先導で、被害を確認しつつ不動滝までを往復して調査を行いました。土砂に流されて川幅が大きくなっていてる所が随所に見られ、不動明王の像もなくなっていました。参加者の中には、子どもの頃に遊んでいた場所の様子が一

## 東連津

安良宿東支部長 志賀 利行

私は、旅行で山や海とか温泉に行くよりも地方都市を散策するのが好き。寺社に参拝して、市電に乗り、坂道を歩き、夜は居酒屋で食事をする。さながらブラタモリと酒場放浪記を足したような感じである。そんな自分が日高の町を見ると、小木津駅からのメインストリートを中心に、すぐに住宅地があり、4車線道路もなく生活しやすさを感じる。

### 住めば都

散歩しているとプロテリアル日高体育館から見える景色がまた良い。夕日に山が照らされ、冬の海は透明感があって美しい。そして意外に住宅が多い。同じように眺めている人を時々見かける。好物のお饅頭屋があり、東京には常磐線が一本、北に南にはすずの日立北ICから、車で数分でゴルフ場、そして有名な酒蔵もある。ここで生まれて大学進学から12年ほど離れていたが、まさに私にとって「住めば都」といえる。

## あの人 この人

日高小学校長  
井坂 敏子さん  
(56歳)



「あいさつ、ちようせん、おもいやりそして郷土愛を」  
自らが小学生時代に担任だった先生の姿にあこがれて、卒業作文に「将来は学校の先生になりたい」と書き、その夢がかなって現在日高小学校の校長先生を務められている井坂敏子先生をご紹介します。

高小学校が初めての日立市勤務だそうです。子どもたちに絶えず語りかけていることを尋ねると、「あいさつ・ちようせん・おもいやり」と応えてくれました。それらが日常化すれば、誰もが明るく元気になり、優しい心が育まれます。さらに、変化の激しい時代に生きる力の基となると考え、繰り返しお話しして

いるとのことでした。次に「学校支援に対する地域の協力の大きさに感謝そのものです」と、何度も口にされました。町探検、日高つ子体験村、おんもさ祭り……。これらが子どもたちの郷土愛の礎となり、正に「地域とともにある学校づくり」で、校長先生の経営の重点の一つとなっていると喜ばれていました。まために「創立150年の歩みを持つ歴史ある本校で、子どもたちとの笑顔あるふれあいや近代的な新校舎に励まされて、充実した教育活動を展開していきたい」と、決意を述べられました。

(豊田賢一)

## 広報部長木田さん 逝去

### 広報「日高」の発行に尽力

日高学区市民自治会広報部長の木田源一さん(74)が、11月23日逝去されました。

木田さんは、平成5年から市民自治会の広報部活動に参加し、同13年から広報部長を務めるなど、市民自治会幹部として多くの事業で活躍し、現在に至りましても活動しました。その傍ら東本宿支部長としても活動しました。木田さんの長年にわたるご功績に感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。



被害状況を確認中

## 県小中学校芸術祭で 日高小・日高中生が入賞

令和5年度の茨城県小中学校芸術祭において日高小学校、中学校の生徒が次のとおり入選し、11月に水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館で作品が展示されました。

### 日高小学校

- 絵画・デザインの一部 6年 黒澤 一花
- 書写の一部 1年 鈴木 優

### 日高中学校

- 絵画・デザインの一部 3年 松本 妃
- 書写の一部 2年 片根 迪夏

## 編集後記

コロナ禍も収束し、年末年始には、交流センター玄関の門松作り、わら細工教室(正月飾り)、小さなお子さんを連れたご家族など多くの方で賑わった鳥追い祭が実施されました。日高市民自治会の大切な事業、また地域の文化として、これらの魅力ある催しをしつかり次世代に繋ぐために自治会広報紙からも発信したい。(佐藤賢一)